

【学校プールのあり方】
(小・中・特別支援学校)
経営分析・事業分析報告書

2025年3月
教育委員会

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

本クラスターにおいては、老朽化の進展に伴い多くの学校で保全や維持管理のコストが増大しており、猛暑による熱中症等のおそれから計画的な指導の実施が困難となるほか、水質管理や屋外・水中での指導といった教員への負担が近年課題となっている「**学校プール**」について、学習指導要領に示されている学びの確保を踏まえながら、「**教員負担の軽減**」や「**維持管理コストの削減**」に着目した。

早急な対応が求められ、かつ定量的なデータを示しやすい「学校プール」の事例を具体的に取り上げることで、「**こどもまんなか**」で質の高い教育環境の充実を図るもの。

KPI①

思永中学校温水プールを使用して学校水泳授業を行う学校数

現状：2024年度2校

⇒ 目標値：2026年度6校

KPI②

思永中学校温水プールへの集約化が「負担軽減・業務改善につながった」と答えた集約対象校教職員の割合

現状：2023年度類似調査 72%

⇒ 目標値：2026年度 80%以上

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識**
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

学校施設の多くは、1970年頃から1980年代にかけて建設された。プールも同様に老朽化が進んでいるが、設備等が高額で十分な改修費を確保できず、改修しても、昨今の課題(熱中症対策、通年利用)に対応できない。

また、学校規模適正化に臨む中では、どのプールを改修・改築するか、見通しを立てることが困難である。

学校プールの老朽化

築年数	学校数
50年以上	81校
40～49年	36校
30～39年	24校
38年未満	54校
計	195校

学校プールの修繕経緯

年度	学校数	修繕費
2024 (9月末)	16校	38,705,700円
2023	60校	105,005,450円
2022	48校	42,992,455円

軽微な工事に対応できない修繕困難なものは除く

学校プール全体の課題

ハード面	ソフト面
○児童生徒は減り続けているが、学校プールの数は変わらない	○授業が天候や気温に左右され、計画的に実施できない
○利用する児童数に関わらず、1校毎に維持管理費がかかる(水道、薬品等)	○教職員の負担が大きい (全校において、授業計画、指導、監視、水質管理する必要がある)
○集約や改築の計画がないため、多数の対処療法を繰り返している	

思永中学校温水プールの課題

学校授業	市民利用
通年使用できるプールであるが、2校しか使用していない	○利用者数の減少 (2018年度 64,140人 ⇒2023年度30,367人)
	○収支バランスが悪い (2023年度使用料収入 7,530千円 ※支出の11%)

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状**
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

北九州市における水泳授業実施の現状

現在の実施方針

原則：自校のプールを使って水泳授業を行う。

校外施設の活用 ①老朽化により自校プールが使用不能である学校（修繕を行わない）
 ※近隣校と共同使用⇒公営プール等の利用⇒③民間委託 の順で活用施設を決定
 ②建替え、統廃合に伴いプール施設を設置していない学校

※令和7年度から、大学プールを①の活用施設に追加予定。

令和6年度の実施状況

北九州市立の小・中・特別支援学校数（休校、夜間中学校除く）		195				
	自校プール使用（小学校123校、中学校58校、特別支援学校6校）		187	※プール授業休止 2校		
	校外施設の活用（自校プール以外のプールを使用）			6		
	①老朽化に伴う校外施設の活用				3	
	・近隣校と共同使用（小森江小学校、本城中学校）				2	
	・市営温水プールの利用（花尾中学校）					1
	②プール施設を設置していない学校				3	
	・思永中学校温水プール（近隣校）を利用（西小倉小学校）				1	
	・市営温水プールの利用（くきのうみ小学校、小倉総合特別支援学校）					2

学校プールの現状（経費等）

【市立学校プール(小・中・特支)】

支出

○プール修繕費 年間約**105,006千円**(2023年度実績)

○プール維持費 1校当たり約40万円
(水道代、薬品代、点検代等)

学校プールの老朽化が進み、
修繕料が増加

【思永中学校温水プール】

支出

○市民開放運営経費(運営委託料、光熱水費) 約**66,000千円**
(2024度実績)

○修繕費 年間約**3,651千円**(2024年度予算)
※別途保守点検費

市民開放を行うための支出
に対して、使用料収入は年々
減少し、収支バランスは悪化

収入

思永中学校温水プール使用料収入 約**7,530千円**
(2023年度実績)

市の組織体制(執行体制)記載

○市立小学校の水泳授業(計画、指導、水質管理等)

- (1)市教育委員会学校教育課
担当主事、係長、課長(3名)(他の業務と兼務)
- (2)教職員(1授業につき3名)

○市立小中学校(思永中以外)プールの維持管理

- (1)市教育委員会施設課整備係
担当者、係長、課長 3名(他の業務と兼務)
- (2)工事業者
上記担当者が都度発注

○思永中学校温水プールの一般開放の運営業務(監視業務、受付業務等)の体制

- (1)市教育委員会施設課管理係
担当者、係長、課長 3名(他の業務と兼務)
- (2)委託業者
 - ①運営管理業務
 - ②プール監視業務

学校プールにおける水泳授業の課題

(1)気候変化(高温化)に伴う計画的な実施への影響

- ・授業実施の基準:「北九州市学校における熱中症対策ガイドライン」(北九州市教育委員会作成)
⇒暑さ指数(WBGT)の当日朝の予測値が33℃以上 … 運動を伴う学習は全市一斉中止
活動場所の実測値が31℃以上 … 該当校は、屋外での活動・運動は原則中止

※暑さ指数…「気温」、「湿度」、「輻射熱」を取り入れた、暑さの厳しさを示す熱ストレスの評価指標。(国際規格)

- ・暑さ指数が上記数値を上回った日数(令和6年7月～9月)(土・日・休日・夏季休業日を除く44日)
33℃を上回った日数:1日 / 31℃を上回る学校があった日数:15日 ※水泳授業を中止した日数ではない

➡ 近年は「暑さ」を理由とする水泳授業の中止が生じている。

(2)水泳授業の実施にかかる教職員の業務負担

①業務の内容

- 管理業務…気温・水温の確認、水位・水質(塩素濃度)管理、浮遊物除去、用具準備・片付け 等
(作業時間 合計 3時間/日×30日間程度)
- 授業実施…指導・監視(水中1名、プールサイド2名以上)※担任以外の教職員の従事を要する
- その他 … 開始時の清掃・点検・注水管理、プール日誌の記載、用具管理、終了後の清掃 等
(所要時間 合計 5日間・27時間程度)

②業務負担にかかる教職員(小学校)の声

- ・屋外での水泳指導はかなり体力的に負担がある。 ・生命に直結する。(精神的負担)
- ・プールの管理業務や指導の準備に時間がかかる。

出典:教職員アンケート(教育委員会)

➡ 様々な種目、教科がある中でも、1授業に3人の人員を要したり、注水や水質管理等の管理業務に授業時間以外の対応が伴う水泳学習は、教職員の負担が大きい。

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて**
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

1) 屋内温水プール整備の経緯

建築後51年を経過した思永中学校の全面改築にP F I手法を導入し、2007年6月27日から2024年3月31日まで、施設の設計・工事から、その後の維持管理及び運営を民間事業者に一括して委ねていた。

全面改築を行う際に、老朽化した勝山市民プール（屋外プール）の建て替えも検討されていたため、勝山市民プールの代替施設の役割を持たせ、学校が授業で使用する以外の時間帯は、市民の利用に供する、通年利用が可能な屋内温水プールとして整備された。

2) 施設概要

- (1) 所在地：北九州市小倉北区大門一丁目5番1号（思永中学校敷地内）
- (2) プール：メインプール 25m×7コース（水面積350㎡） 幼児用プール （水面積50㎡）
- (3) 駐車場：56台（うち2台身障者用）
- (4) 供用開始：2009年4月1日

3) 運営

◎市民利用

◎学校授業

	7，8月	7，8月以外
供用時間 (学校使用日)	10～22時 (16～22時)	10～20時 (16～20時)
休館日	なし	毎週月曜日

使用期間	6から9月
使用時間	平日8時50分～15時40分
利用校	思永中、西小倉小

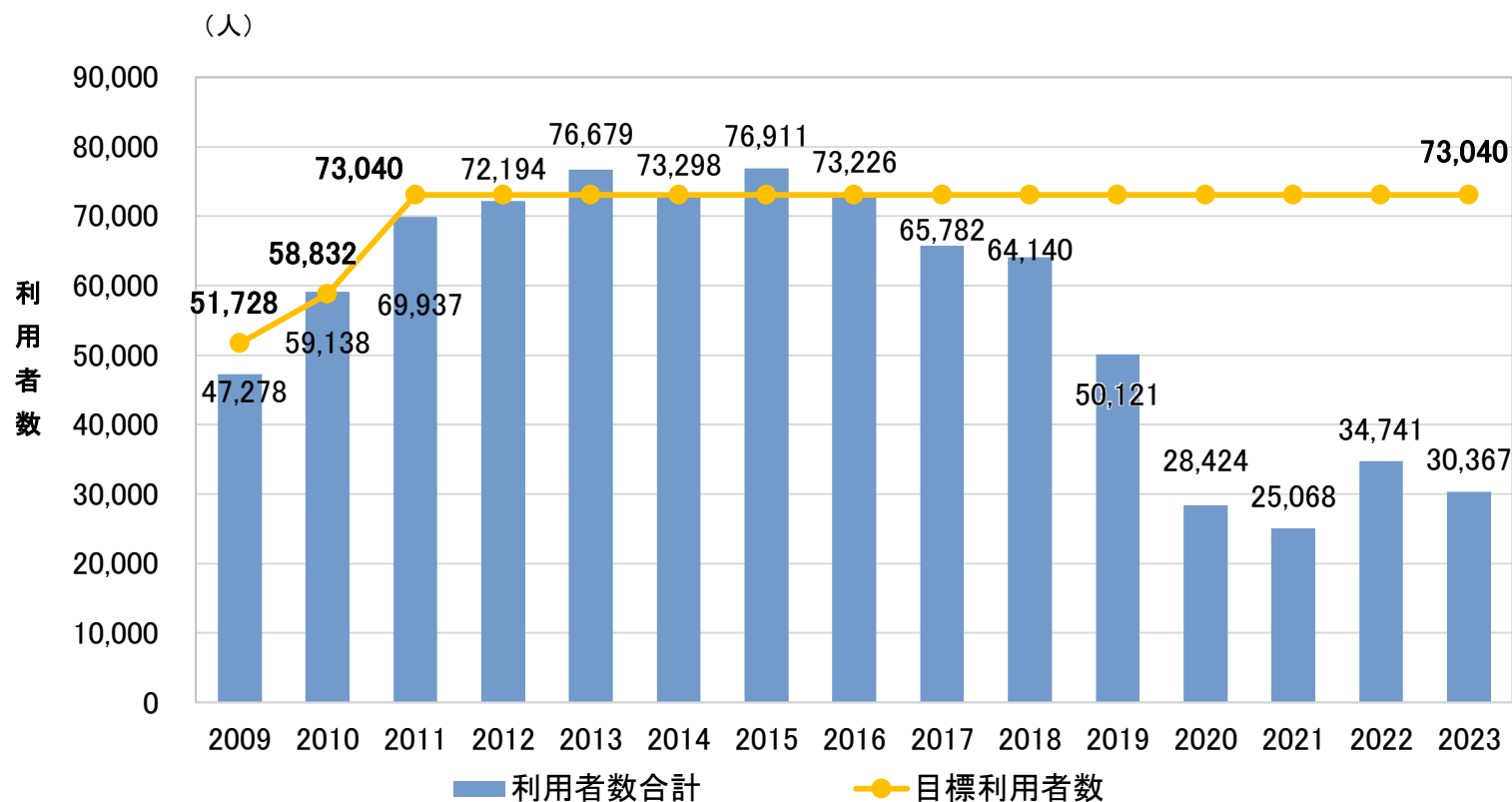
※令和7年度から供用時間改正

2008年	勝山市民プール廃止
2009年4月	思永中学校温水プール供用開始 P F I（B T O方式） （プールの運営は思永コミュニティサービス（S P C））
2017年度～	思永中学校温水プールでの西小倉小学校水泳授業開始
2024年3月	P F I 事業終了
2024年4月	委託業者によるプール運営

思永中学校温水プールの利用者の推移

2009年度から2013年度にかけて増加傾向であったが、2017年度以降は減少傾向

原因：2017年度の「第一警備スポーツセンター戸畑（浅生スポーツセンター）」の開業及び
2019年度以降の新型コロナウイルス感染症の影響と考えられる。



⇒ 思永中学校温水プールの利用者は目標の半分以下であり、利用可能人数に余裕がある。

思永中学校温水プールの周辺の学校の状況



●徒歩又はバス移動で、10～15分圏内の学校が集約化対象候補となる。

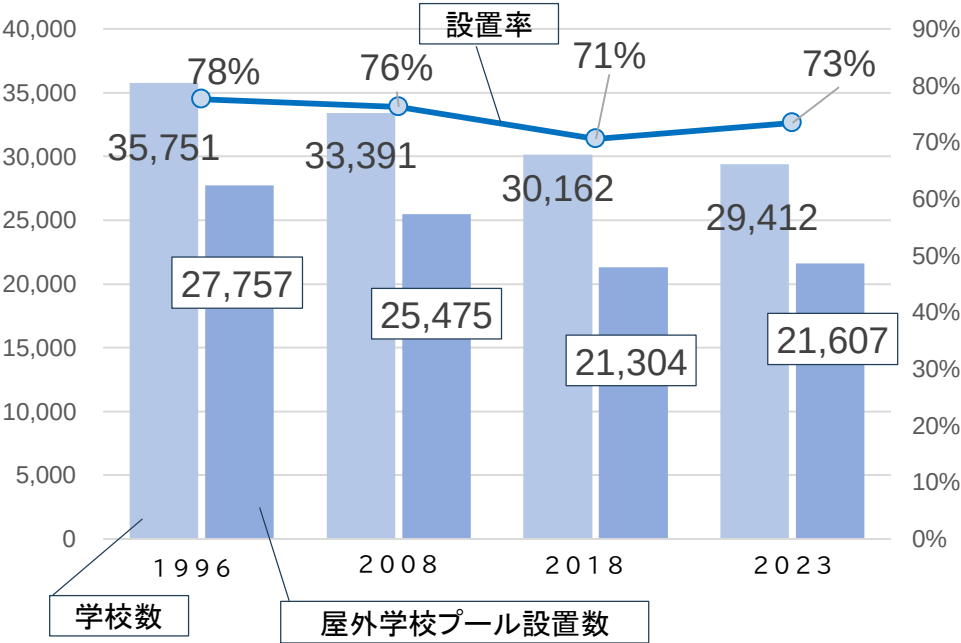
目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較**
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

全国的に屋外学校プールの設置は減少傾向である。また、校外施設の活用による水泳授業のあり方の検討が始まっている

全国の屋外学校プール設置状況

年度	学校数			屋外学校プール設置数			設置率
	小学校	中学校	合計	小学校	中学校	合計	
1996年	24,482	11,269	35,751	20,111	7,646	27,757	78%
2008年	22,476	10,915	33,391	18,610	6,865	25,475	76%
2018年	19,892	10,270	30,162	15,755	5,549	21,304	71%
2021年	19,336	10,076	29,412	15,648	5,959	21,607	73%



資料：学校基本調査（文部科学省）、体育・スポーツ施設現況調査（スポーツ庁）を加工

政令市の学校外プールの活用状況

	学校外プール活用状況（試行含む）				学校外プール活用校数	
	民間施設	公営プール	他校と共用	拠点校方式	小学校	中学校
札幌市	○	○		×	12	0
仙台市	○		○	×	1	2
さいたま市	○			×	13	3
千葉市	○			×	13	0
横浜市	○			×	15	0
川崎市	○		○	×	3	
相模原市	○	○	○	○	19	1
新潟市	○	○		×	5	2
静岡市	○	○	○	○	8	
浜松市			○	×		
名古屋市	○			×	8	0
京都市	○			×	3	1
大阪市				×		
堺市	○			×		1
神戸市	○		○	×	9	1
岡山市	○	○	○	○	2	6
広島市		○	○	×	1	0
北九州市	○	○	○	検討中	5	1
福岡市	○		○	×	4	0
熊本市	○		○	×	6	0

資料：令和6年度都道府県教育委員会等指導事務主管部課長会議資料、北九州市学校教育課調査を加工

水泳学習の民間委託等実施状況の他都市比較(2024年度)

県内でも、民間施設を活用し、水泳学習を委託する動きが広がっている。

○全校で民間委託を本格実施 … 古賀市

○モデル校で試行実施 … 福岡市

○民間温水プールを誘致のうえ、全校で民間委託を実施予定… 岡垣町

県内他都市との比較

	古賀市	岡垣町(計画中)	福岡市	参考:北九州市 (2023年度検証)
小中学校数	11校	7校	216校	189校
児童生徒数	約4,700人	約2,600人	約122,000人	約65,400人
実施校数	全11校	全7校	小学校 4校 (モデル校)※	小学校 3校 (検証校)
実施回数	2コマ×3回	—	2コマ×4～5回	2コマ×4～5回
実施場所	公営施設 1 民間施設 2	民間施設新設を公募	公営施設 1 民間施設 3	民間施設 3
民間施設利用 予算	2000万円	(立地促進補助金 5,000万円等)	1900万円	830万円

資料:2024.6.18西日本新聞、同7.18読売新聞、同9.5西日本新聞、教育委員会調査より

※福岡市は、2025年度から民間委託の本格実施を予定。10分以内に民間施設等のある学校から順次移行。

○県内でも、施設の活用や専門的な水泳指導を民間に委託する自治体は増えている。

プール施設の更新時期を見据え、40～50年の長期スパンでの費用対効果を踏まえた全市的な学校プールのあり方の検討が必要。

水泳授業の民間委託について

水泳授業の民間委託の効果と課題

- ・導入自治体が増えている民間委託は、①民間のプール施設の利用、②①と専門の指導員による指導の併用、③学校プールへの指導員の派遣等の様々な形態があり、他都市でも実施の内容は様々である。
- ・このうち、①民間の屋内プール施設を利用し、②水泳授業自体を民間事業者に委託して実施する形式について、北九州市や他都市の検証例からは、次のような効果や課題が挙げられている。

効果

- ・水質点検や消毒等の管理業務にかかる教職員の負担が軽減される
- ・指導員による専門的な指導が受けられる
- ・屋内のため、気温や天候に関わらず計画的な授業の実施が可能
- ・老朽化に伴う改修や建て替えにかかる経費が削減される

課題

- ・学校から民間プールまでの、バス等の移動手段や移動時の安全の確保が必要
- ・移動や着替えに時間を要する
- ・民間委託にかかる経費（委託費、移動費）は児童生徒数に比例するため、学校規模によっては、コスト面の効果が大きくない
- ・活用できる民間施設やバスの安定的な確保

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見**
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

2023年度PFI事業終了時の関係者ヒアリング(思永中プールに関するもの)

市担当者及び学校関係者の主な意見

1 安全なプール運営

- 事業者により安全なプール運営が行われた。
- 水質管理については、定時に検査が行われており、適正な数値が保たれるように対応されていた。
- 学校利用に関しては、事業者と学校が丁寧に打合せを行い、円滑に対応できていた。特に、事業者において、更衣室の確保や児童・生徒の動線について細かい配慮を行い、学校利用に支障のない運営がなされた。
- プールの受付・監視について、利用者からの苦情が市に寄せられることがまれにあった。その際は、市から事実確認を行ったが、市の職員が現場に急行するようなトラブルは発生していない。

2 プール運営における工夫

- 夏季の開館時間延長、幼児・児童向けの水泳教室等の企画事業の開催により、市民のスポーツ振興や健康増進に寄与した。

PFI事業者の意見

1 地域経済への貢献

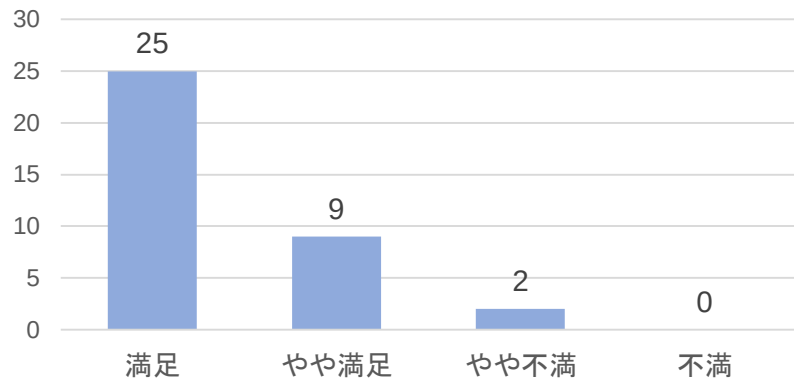
- ・事業期間を通じて地元企業と協力することで、地元雇用を生み出し、経済活性に貢献できた。

2 迅速な対応による円滑な運営への寄与

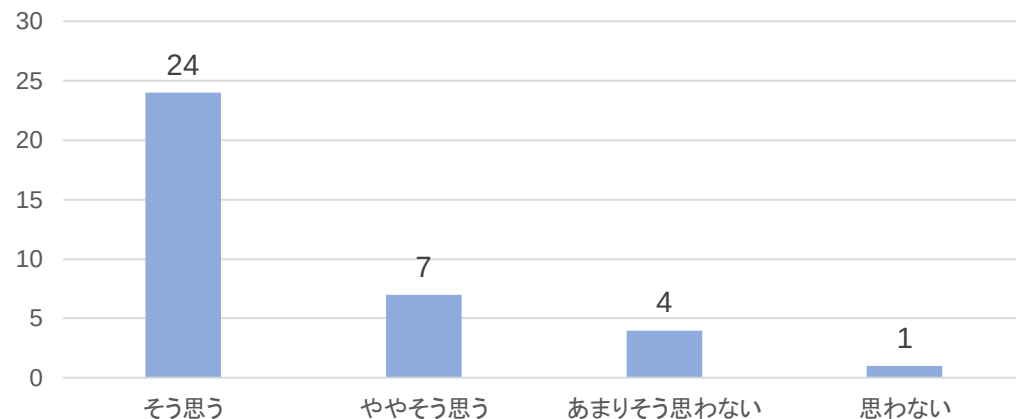
- ・不具合発生時は、早急な対応を目標とし、安全・安心をモットーに状況に応じて柔軟かつ迅速に対応したことにより、円滑な学校・民間開放屋内プールの運営ができた。

2023年度に実施した水泳学習の民間委託(小学校3校)にかかる教職員アンケート結果

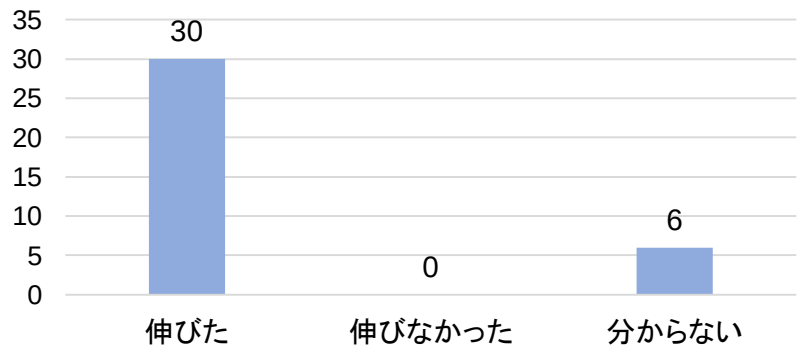
1 民間委託による水泳学習について



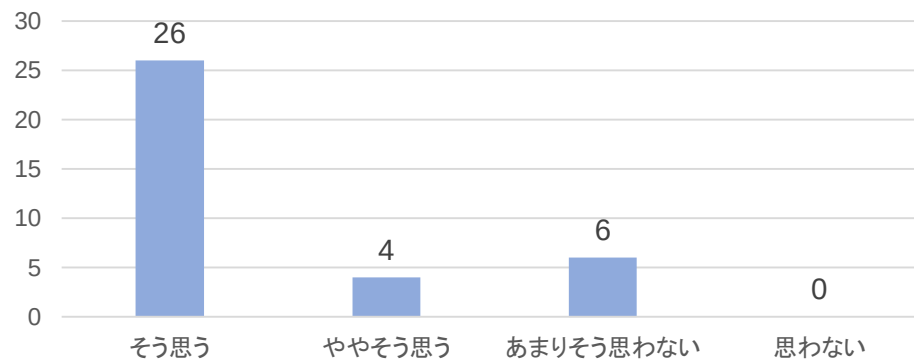
3 教員の指導力向上につながった



2 児童の泳力について



4 教員の負担軽減・業務改善につながった



- 水質管理等のプール管理業務がない。
- 体力的に負担だった屋外、水中での指導がない。
- ▲移動時の暑さ、着替えに時間がかかる点は課題。
- ▲引率者が出ることで学校の体制が手薄になる場合がある。

思永中学校温水プール・民間温水プールを使用した場合

所感・傾向	
思永中学校 温水プール	民間温水プール
○安全なプール運営ができる	○教員の指導力向上につながる ○児童の泳力がのびた
○水質管理等の教員への負担が軽減し、業務改善につながる	

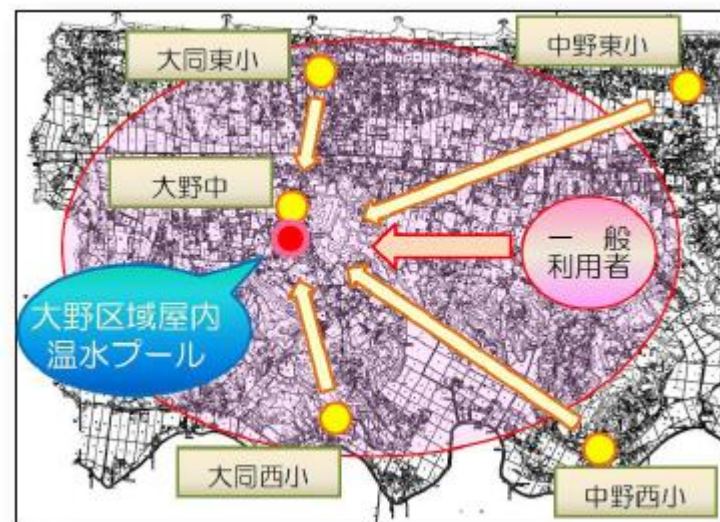
目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例**
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

鹿嶋市教育委員会 いきいきゆめプール

茨城県鹿嶋市大野区域の5つの小中学校の屋外プールが、建設後40年以上を経過しており、老朽化によって毎年の修繕費用がかさむ事などが懸案事項となっていた。

5つの学校屋外プールを新築するか、集約して屋内プールを建設するのかの議論を重ねた結果、5つの小中学校の屋外プールの機能を集約したうえで、市民も通年で利用可能な利便性の高い屋内温水プールとして整備することとなった。



鹿嶋市教育委員会 いきいきゆめプール

1 管理運営

(1)管理方法:指定管理

(2)運営

開館時間:午前9時から午後9時まで

休館日 :毎週月曜日、年末年始

体制等:5人(監視員3人、受付事務2人)

(3)事業運営等

プール:午前中を学校プール、それ以外を市営温水プールとして開放

※学校プール授業支援(監視院や水泳指導補助)や一般を対象にした各水泳教室等
を実施

トレーニング室:シニアを対象とした健康づくりの教室やエアロビ教室など

その他:災害時に近隣住民へシャワー開放など

(4)管理運営費:2023年度実績 48,203千円

指定管理料45,273千円+使用料等3,149千円

鹿嶋市教育委員会 いきいきゆめプール

2 学校使用(水泳授業)(整備当初)

- | | |
|---------|---|
| (1)使用学校 | 大野区域の1中学校、4小学校(計59クラス、約1,100人) |
| (2)使用期間 | 5～11月(夏休み除く)午前中(学校貸し切り)
※水泳授業の予定回数を基に期間を設定 |
| (3)使用方法 | 各学校とも1学年8～10時間の年間指導計画
※1回2時間(コマ)で計画
※学級・学年の人数に応じて、可能な範囲で同日実施。 |
| (4)年間調整 | 年度当初に、学校と市及び指定管理者で年間利用調整打合せを実施し決定 |
| (5)移動方法 | 1中学校は徒歩(5分程度)。
4小学校はバス移動
※原則、市所有バスを利用。不足分は民間バス借上げ。 |

鹿嶋市教育委員会 いきいきゆめプール

【参考】

検討の経過

2015年度 基本計画を策定し、方針決定

2017年度 基本・実施設計業務 及び 工事着手

2018年度 いきいきゆめプール完成(2019.3.5)

2019年度 いきいきゆめプール竣工式、供用開始(2019.4.7)

鹿嶋市立小・中学校水泳授業の実施プール(2024年度)

鹿嶋市立小学校 12校、中学校 5校

①いきいきゆめプール(市施設:指定管理) 5小学校、1中学校

②高松緑地温水プール(市施設:指定管理) 1小学校、3中学校

(2024年度で閉館するので、2025年度からはいきいきゆめプールと民間温水プールで実施予定)

③民間温水プール 3小学校

④自校プール 3小学校、1中学校

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方**
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

以上を踏まえ、学校プールについて「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を図るため、下記のとおり考え方を転換する

<これまで>

- ◆学校の屋外プールでは、授業実施が天候の影響を受けることに加え、熱中症のリスクがある。
- ◆教職員が3人体制で、水質管理や安全管理、水泳指導をしてきた。
- ◆1校1プールを配置し、不具合があるたびに、その都度修繕をしてきた。
- ◆プールの老朽化が進行し、今後多くの修繕が必要になり、使用日数が少ないが維持管理費の負担が増大する。改修又は改築しなければ使用できないプールも6校ある。

<これから>

- ◆修繕困難で、市営温水プールや民間温水プールの活用が可能な学校は、移行を図るなど、施設の集約化を行い、熱中症や天候不順の影響で計画通り授業が実施できない課題を解決する。
また、学校プール建て替えの際には、屋内化し複数校で共同利用する。
- ◆水質や安全管理などの教員の負担を軽減する。
- ◆適切なプールの環境整備により、プール1施設当たりの稼働日数や利用人数増加による費用対効果を改善する。

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）**
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）

今後の市政の持続可能性のため、以下の3つの視点から、これまでの枠組みを転換する改革案を検討する。

- ①費用対効果、老朽化等(実施水準及び対象範囲の妥当性)
- ②「選択と集中(最適化)」(地理的重複、類似機能)
- ③「付加価値向上」(オペレーション、統合し高付加価値)

◆課題1

視点:①費用対効果、老朽化等及び②選択と集中

内容:①老朽化したプールの順次廃止

既存プールは可能な限り使用するが、老朽化等により安全性の低下が懸念される場合や大規模改修が必要になったプールは修繕せずに、近隣校や市営温水プールや民間温水プールの活用を検討する。

②思永中学校温水プールに近隣校を集約

思永中周辺のプールを集約し、共同利用するとともに、学校プール建て替えの際には、屋内化し複数校で共同利用する場合の、メリット、デメリットを整理する。

◆変革案1

- 集約化により生じる、学校からプールへの移動手段の確保
- 1つのプールを複数校で使用するための学校間の利用調整

◆課題2

視点:③付加価値向上

内容:③教員の負担軽減

計画的な水泳授業の実施ができる
安全かつ衛生的なプールで授業ができる
水質管理などはプール管理者が行うので教員の負担が減る

水泳授業の質の向上

児童生徒が快適な室温水温で授業を受けることができる
熱中症やプールサイドでのやけど等の心配がなくなる



◆変革案2

- 温水プール管理者(委託業者)による水質・室温管理
- 水泳授業時の業務委託による水深の管理や指導補助の導入

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制**
- 11 行程表（スケジュール）

思永中学校温水プールへの集約は、2025年度は2校追加予定。2026年には、さらに2校追加予定で検討している。

思永中学校温水プールへの集約化をモデルケースとし、今後の集約課題を洗い出し、学校全体の集約化計画を策定する。

実行体制		
教育委員会 施設課 学校教育課	学校 2024:思永中、西小倉小 2025:上記+2校(計4校) 2026:上記+2校(計6校)	プール運営事業者 (受託者) 2026年度からは指定 管理者制度導入予定

目 次

- 1 令和6年度に分析したクラスターの目的・目標
- 2 現状における問題認識
- 3 北九州市における学校プールの現状
- 4 思永中学校温水プールについて
- 5 他都市比較
- 6 ユーザー意見
- 7 先行事例
- 8 枠組みの転換の考え方
- 9 課題（変革案）
- 10 打ち手の検討体制及び実行体制
- 11 行程表（スケジュール）**

行程表（スケジュール）

